

## 生息地における野生生物保全活動に対する支援事業

### インドのトラ生息地支援プロジェクト

現地パートナー：インド野生生物トラスト (WTI)

#### 【目的】

中央インド（マハラシュトラ州、チャティスガル州等）および南インド（カルナータカ州、ケララ州等）におけるトラの生息地保全および密猟防止

#### 【概要】

- ・森林火災や密猟防止のためのパトロールなど、森林局による保護地域およびその周辺地域の管理への支援
- ・保護地域外のトラが出没する場所、特にトラが保護地域間を移動するためのコリドー内外で、トラと地域住民との間のコンフリクトを緩和するために地域コミュニティおよび地元行政（森林局）が実施する諸活動の支援

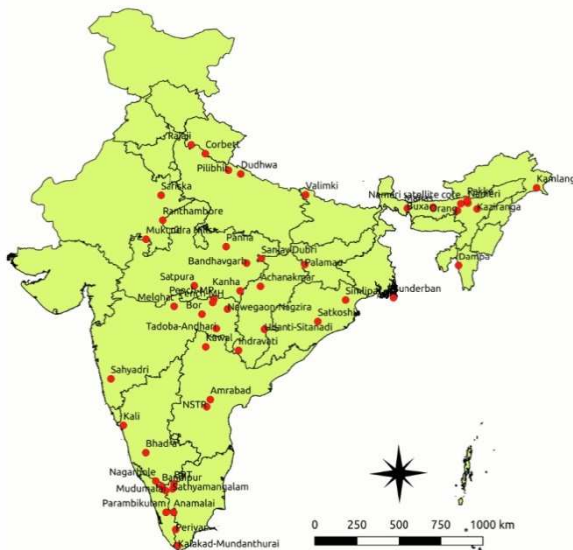
### 活動実績

人件費を除く支援額その他経費（予算額）：2,718,032 円（2,495,000 円）

#### 【活動エリアについて】

**中央インド:** 中央インドは「トラ天国」ともいわれ、世界のトラの 8 割程度を占める約 3,000 頭が暮らすインドの中でも、保護上重要な地域です。カーナ、サトゥプラ、ペンチ、メルガート、タドバ・アンダリ、ナグジラ・ナウェガオン等多数の保護地域を含む、サラノキ等から成る熱帯落葉樹林帯とトラの移動に不可欠な森林コリドーがトラを育てています。これらの地域は、マハラシュトラ、マディアプラデーシュ、チャティスガル、ビハール州の一部、テランガナ州にまたがります。

Map showing locations of Tiger Reserves in India



トラ保護区(赤丸)は、中央インド、次いで南インドに集中する(左)。トラが集中する中央インドの 4 州(右)

**南インド:**南インドは、中央インドに次いでトラの個体数が多い地域です(カルナータカ州は推定 524 頭と、インドで 2 番目にトラ個体数が多い州)。一方、近年トラと人とのコンフリクトの激化がハイライトされ、社会問題となっています。

### 【これまでの WTI と JTEF のプロジェクトの展開】

新型コロナ禍を機に、様々な保護地域あるいはその周辺からの緊急性のある支援要請が相次ぐようになりました。中央インドと南インドのランドスケープ(複数の生態系を含む地域)における活動を対象にしつつ、毎年、複数の緊急プロジェクトに対する支援を行う方針としています。

### 【2022 年 4 月～2023 年 3 月の活動成果】



#### 1. ナウエガオン・ナグジラ トラ保護区(NNTR)で野生生物犯罪防止のトレーニングワークショップ開催

NNTR は、カーナトラ保護区、タドバ・アンダリトラ保護区など重要な繁殖拠点となっているトラ保護区の中に位置し、トラだけでなく、ヒョウ、ナマケグマ、シカなどの哺乳類や多くの鳥類の生息地となっています。トラは定期的に他のトラ保護区などへ分散しています。2007 年に NNTR で開始した活動では、コリドーとしてトラが使っている森に暮らす人々が世帯毎に毎日 10 kg も伐採していた森への負荷を減らすために、熱効率の高いコンロを配布することで伐採量を半減させる成果をあげました。今回、その村を訪れ、そのコンロが村の女性たちによってより使いやすく改良され、他の村々へと広がり、野菜を育てサステナブルな地産地消の村としてモデルケースになっていました。



村の女性たちが改良を重ねているコンロ

この村は WTI の指導の下、非常にうまくいっているケースではありますが、それでも野生動物と日常的に出会う村なので、間が悪いとコンフリクトが起き、助けが必要とされることも多々あります。

私たちが訪れた数日前にはヒョウがヤギをねらってある家の塀を上り、家の中にいたヤギをくわえて塀を乗り越えて森へ戻ろうとしたときに、以前、緊急支援要請を受けて設置した電気がぱっとついたおかげで、ヒョウはヤギを口から落として急いで逃げたという話を聞きました。ヒョウが入ってきて、慌てて逃げた塀。壁にヒョウの爪痕がついていた。

また、当時、森の中で収穫できる林産物をサステナブルに使うって現金収入を得るための女性たちによる活動を支援していましたが、今回、森で採集したマフーアの花などから作ったジャムや蜂蜜がきれいな瓶に詰められ、市場で販売されるようになっていました。



この村では、私たちの訪問を聞いた村の人たちが、2013年に開始したJTEFからの支援で自然を大切にしながら村が発展してきた経過を写真で振り返る展示を用意してくれていました。



13年前の写真の前で、当時からの担当者マヒンドラさんと。

JTEFはNNTRの4つの地域にわたる50人の最前線で活躍する森林局職員向けに野生動物犯罪防止のトレーニングワークショップを実施しました。





ラの生息状況に関する研究を行っている研究者がこの深刻な事態を認識し、JTEF と WTI の RAP の助けを求め、地元コミュニティの力で密猟の監視を始めました。2024 年 4 月末にはボランティアネットワーク向けに 1 週間のワークショップで密猟活動監視訓練を行いました。



#### 4. ボラムデオ野生生物保護区(チャティスガル州)のパトロールキャンプに基礎的装備を強化

ボラムデオ野生生物保護区は、トラ、ヒョウ、ナマケグマ、ドールなど多くの野生動物種が生息し、カーナトラ保護区とアチャナクマルトラ保護区を連結するトラのコリドーとして機能しています。カーナトラ保護区からは西のペンチトラ保護区、南のインドラバチ トラ保護区への移動の道も開けることから、とても重要な位置にあります。JTEF と WTI は保護区管理官からの要請に応え、8つのキャンプにソーラーランタン、ソーラーファン、浄水器を提供し、40人の最前線スタッフに水筒を近々提供することになっています。

### インドのゾウ生息地支援プロジェクト

現地パートナー：インド野生生物トラスト (WTI)

#### 【目的】

南インド(ケララ州のワヤナード県等)および中央インド(マハラシュトラ州等)におけるゾウの生息地保全および密猟防止

#### 【概要】

- ・森林火災や密猟防止のためのパトロールなど、森林局による保護地域およびその周辺地域の管理への支援
- ・保護地域外のゾウが出没する場所、特にゾウが保護地域間を移動するためのコリドー内外で、ゾウと地域住民との間のコンフリクトを緩和するために地域コミュニティおよび地元行政(森林局)が実施する諸活動の支援

### 活動実績

人件費除く支援額その他経費(予算額): 2,757,733 円 (2,495,000 円)

#### 【活動エリアについて】

**南インド:** インドには、世界全体(48,000~52,000頭)の60%を占める30,000頭のアジアゾウが生息しますが、その約半数が集中するのが南インドです(カルナータカ州、タミルナドゥ州、ケララ州、アンドラプラデーシュ州)。南インドにおける活動エリアは、**ケララ州北部のワヤナード県とその周辺**。約6,500頭からなるアジア最大のゾウ個体群\*の生息域の一角を占めます。

\*ブラマギリ~ニルギリ~東ガーツ個体群。その生息地は、西ガーツ(高地)に属するブラマギリ丘陵から、ニルギリ丘陵、そして東ガーツ(高地)にわたり(主にカルナータカ州、ケララ州、タミルナドゥ州)、面積は12,000 km<sup>2</sup>(東京都の6倍)に及ぶ。その生息域の一部は、面積5,670 km<sup>2</sup>のニルギリ生物圏保護区のほか、マイソールゾウ保護区、ニルギリゾウ保護区に指定されている。

2023年から南インドでの活動支援を本格化しています。アジア最大となる約6500頭のゾウ個体群生息域の一角を担う、ケララ州ワヤナード県とその周辺(アララム野生生物保護区など)が活動の重点地域です。



**中央インド:**最近、中央インドのマハラシュトラ州、マディヤプラデーシュ州、チャティスガル州、テランガナ州などで、ゾウの群れが50年以上も不在にしていた場所にさまよい出たり、定着し始めたりする現象が起きています。ゾウが自然に分布を回復することは本来望ましいのですが、ゾウのいる暮らしを知らない人々の間にパニックを引き起こしかねません。そこで、ゾウが突然出現したエリアで悲惨な形で排除される事態に陥らないよう、緊急に対策がとられる必要があります。

**【これまでのWTIとJTEFのプロジェクトの展開】**

新型コロナ禍を機に、様々な保護地域あるいはその周辺からの緊急性のある支援要請が相次ぐようになりました。ケララ州ワヤナード県を中心とする南インドと中央インドのランドスケープ(複数の生態系を含む地域)における活動を対象にしつつ、毎年、複数の緊急プロジェクトに対する支援を行う方針としています。

**【2023年4月～2024年3月の活動成果】**

**1. コッティユル～ペリヤ コリドーの修復**

**コッティユル～ペリヤ コリドーの上に残る村跡**

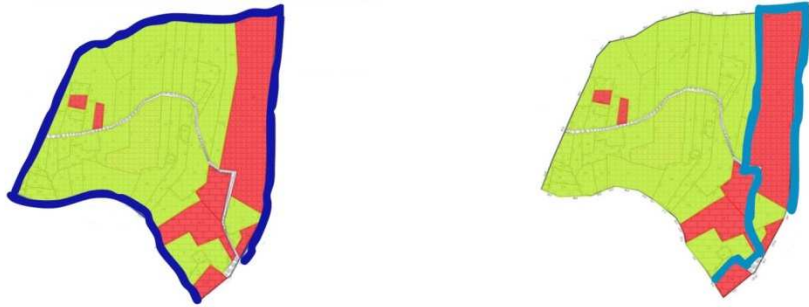
このコリドーは、ワヤナード県の北側県境付近の細長く伸びる緑地帯で、ゾウが東西の森林の間を移動する助けとなっています。しかし、いくつかの村がコリドーにかぶって存在するため、その周囲でゾウと人とのコンフリクトが発生していました。CRP クナ村は、山間にあつて他の町や村から孤立し、野生動物や自然災害によるかく乱にさらされがちな村でしたが、特にゾウコリドーの真上に位置していたことが問題を深刻化していました。その結果、CRPクナの住民のほとんどは、2020年からのケララ州住宅地再開発計画を受け入れて別の土地に自主的に移転することになりました。しかし、荒廃した村跡は、ゾウなどの野生動物が利用しにくい状態のままです。



2024年2月23日、JTEFは、ケララ州森林局、WTIとともにCRPクナ村跡を視察。CRPクナ村入口にて。

### ソーラー・フェンスの配置変更

ゾウ用の侵入防止フェンスは、もともと村全体を取り囲み、ゾウの移動をブロックしていました(左下の図。紺色がフェンスの配置)。そこで、一部村に残った人の敷地内にゾウが入ることを避けるのに最小限必要な範囲だけを囲むように、フェンスを張り直しました(右下の図。水色がフェンスの配置)。こうして、ゾウが村跡を広く移動できるようになりました。



### がれきの撤去と在来植物の植栽

CRP クンナの村人が移転した後、建築資材になるものは運び去られましたが、がれきが残っていました。そこで、がれきを撤去し、さらにネットを張って野生動物に荒らされないよう保護しつつ、計 20 区画へ在来樹木種を植栽しました。



さらに、フェンスの維持、苗木の監視、雑草の除去、不法侵入の監視、人と動物とのコンフリクトへの対処を行う監視員を配置しました。その後のモニタリングの結果、ゾウなどが村跡を利用していることがわかっています。



修復が進む村跡にゾウの糞が見られるように(右)。自動撮影されたトラ(左上)、ヒョウ(左下)

## 2. ケララ州森林局高官と地元NGOとの交流

2月22日、JTEFは、ケララ州森林局の高官と、地元NGOを招いての交流会に出席した。森林局からは、「北部森林域」(野生生物の保護地域以外の一般林)全体を統括する森林保全官長、ワヤナード・サウス森林区(一般林)を統括する副森林保全官長、ワヤナード野生生物保護区の副野生生物ウォーデンが出席した。森林保全官長と副森林保全官長はともに女性です。

この場で、JTEFとワヤナード野生生物保護区その他の野生生物保護区周辺での人とゾウとのコンフリクトへの対処、密猟防止等の活動のためにケララ州森林局に支給した装備(トーチなど)も披露されました。

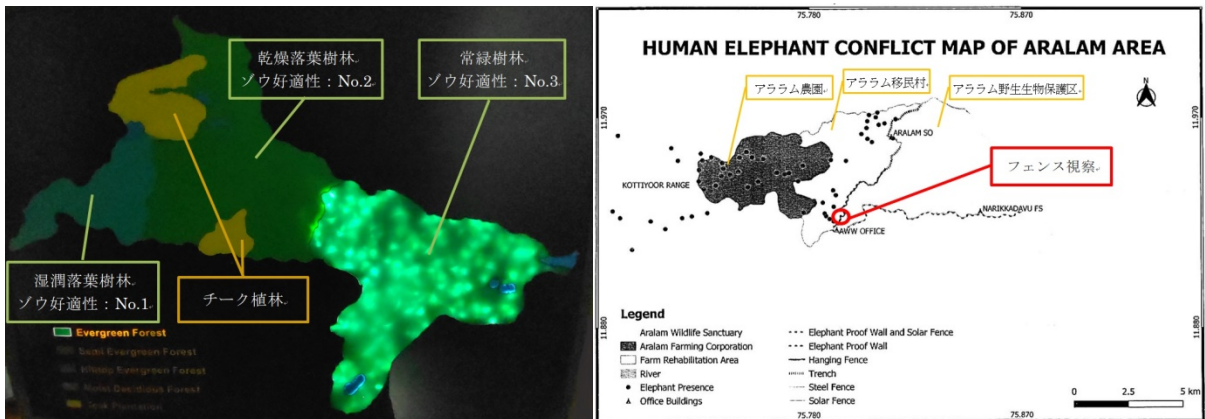


こうして森林局に支給された装備は、翌3月に起きた、ベグール森林管理区域での牙無しオスの森への追い払い(下の写真左)、コッティユル野生生物保護区周辺でのゾウとのコンフリクトが発生したときの対処(下の写真右)に、早速役立てられました。



## 3. アラム野生生物保護区周辺部におけるゾウと地域住民の間のコンフリクト緩和のための森林局への装備の支給

2月23~24日、アラム野生生物保護区を訪ねました。その西側には、アラム農園・移民村が隣接します。下図のとおり、ゾウは近年、アラム農園、移民村に頻繁に現れています。しかし、アラム農園はゾウの通り道になっているだけではありません。近年では数十頭のゾウがアラム農園内に継続的に滞在し、そこで繁殖までしているといえます。





農園は移民村の先住民たちが利用することも許されているので、カシューナッツ収穫などの際、ゾウと出くわすリスクがあります。そしてそれ以上に、ゾウが長期滞在する野生生物保護区および農園に挟まれている移民村の内部でも事故が起きるリスクがますます高くなっています。しかし、ようやくここにたどり着いた移民も、ゾウも同じ土地を利用するしかないのがまぎれもない現実。移民村内のそれぞれの住まいと生活のための耕作地単位で、ゾウの侵入を防止するとともに、人々とゾウの双方に出合い頭を避ける習慣が定着するようにするしかないと考えられています。抜本的対策が存在しない中、人と野生動物との共存を模索する現代インドの姿を典型的に示す例です。その際カギとなるのは、電柵などによるハード対策だけでなく、住民自身が知識と自覚を持つよう訓練されること、森林局の住民に対する手厚い相談体制、迅速な助言・対応、こまめな巡回、それらを通じた両者間の信頼関係の確立です。



そこで今回、アララム野生生物保護区の森林局スタッフ各自に対して、保護区内および周辺でのパトロールを充実させるべく、その際に携帯する装備の入ったザックを提供した。森林局と移民村の住民らの間のコミュニケーションが改善され、厳しい状況の中にも人々とゾウとの共存が何とか保たれることが期待される。



アララム野生生物保護区ウォーデン、ビベック・メノン、JTEF 理事長・事務局長が壇上に上がり、同保護区スタッフ（森林官、森林警備官、監視員ら）に向けて挨拶。その後、装備がスタッフに送られました。

## イリオモテヤマネコ生息地保全プロジェクト

パートナー：イリオモテヤマネコ生息地保全調査委員会（委員長：土肥昭夫）  
西表大原ヤマネコ研究所（所長代行：岡村麻生）

### 【目的】

西表島低地部におけるイリオモテヤマネコ生息地の保全

### 【概要】

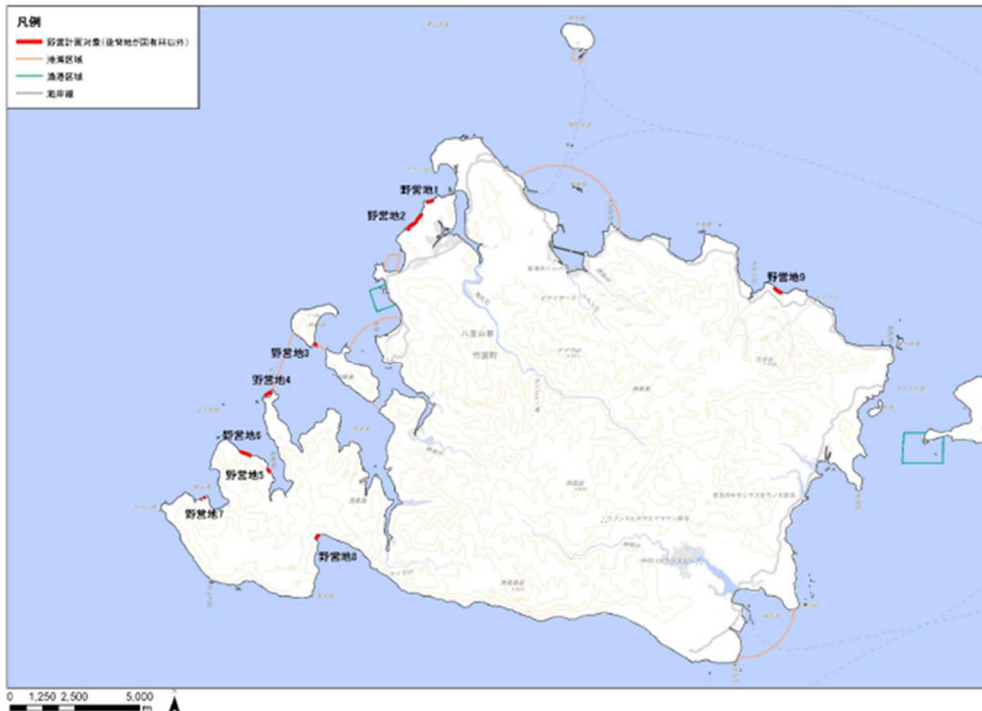
- ・西表島低地部の土地利用に際して生息地保全のために配慮すべきことを調査し、関係機関へ提言する。
- ・ヤマネコを含む絶滅危惧種の回復を中心とした、生物多様性保全のための法制度を関係機関へ提言する。

## 活動実績

人件費等（管理費）を除く支援額その他経費（予算額）：134,231 円（120,000 円）

### 西表島の9か所でキャンプ・たき火ツアー解禁の動き

2024年1月29日に開催された西表島エコツーリズム推進協議会において、事務局の竹富町自然観光課から西表島の海浜9か所におけるキャンプ・たき火ツアーの市場開放を検討している旨の説明がなされました（地図に赤色で示された場所）。キャンプ候補地のうち4か所は第一種特別地域及び世界遺産区域内に指定されており、イリオモテヤマネコをはじめとする希少野生動物および周辺環境への悪影響が懸念されています。



9か所のキャンプ候補地（令和5年度 第2回 西表島エコツーリズム推進協議会資料より）

竹富町はこれまで西表島島内ではキャンプ場などの指定場所以外でのキャンプ、たき火は行わないよう指導しており、2022年に国に認定された西表島エコツーリズム推進全体構想においても「キャンプ、たき火等の行為は原則禁止する」とされています。また、2023年3月に策定された西表島観光管理計画では、世界遺産区域内の利用について「恒常的に利用されているフィールド20か所を上限としてそれ以上利用箇所が増大しないよう制限する」と定められており、キャンプ・たき火ツアーの市場開放はこれら計画と明らかに矛盾しています。

また、この計画自体が一部の事業者からなる非公開会合を基に計画されているなど、検討状況にも不透明な点があることから、やまねこパトロールは竹富町自然観光課に対して、住民に開かれた議論と計画の慎重な検討を求める要望書を提出したほか、2024年8月4日には、八重山毎日新聞に意見「キャンプ・たき火ツアー解禁は西表島のためになるのか？」を投稿し、地元西表島住民への情報共有と問題提起をしました。

## 報告書「西表島の世界遺産登録から3年が経過して」を作成しIUCNに提出しました

### 西表島の世界遺産登録から3年が経過して

観光客入域規制の停滞と、  
遺産地域内における新たな観光ビジネスのための市場開放



2024年5月

認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金(JTEF)  
JTEF西表島支部やまねこパトロール



2021年7月26日、世界遺産委員会は西表島ほかを世界自然遺産リストに記載するとした決定の中で、締約国=日本に対して「西表島の来島者数を環境容量内に収めること」「イリオモテヤマネコのロードキル対策を強化すること」の2つの対策を実施するよう勧告しました。その後、沖縄県によって「西表島観光管理計画」が策定されるなど、一応の対策はされたかのように見えますが、残念ながら世界遺産委員会の指摘に応えるような実効性のある計画ではありません。また、前出のキャンプ・たき火ツアーの市場開放検討など、世界遺産地域を新たに観光利用しようという動きも出てきています。

そこで、JTEF やまねこパトロールは、世界遺産西表島の保護管理に関する問題を考察し、環境省・沖縄県・竹富町が実施すべきことを提言する報告書「西表島の世界遺産登録から3年が経過して-観光客入域規制の停滞と、遺産地域内における新たな観光ビジネスのための市場開放」を作成し、世界自然遺産の諮問機関である国際自然保護連合（IUCN）に提出しました。

## 交通事故防止対策

直轄事業（西表島支部やまねこパトロール）

### 【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止

### 【概要】

- ・地元の人々の自発的な協力のもとに、夜間、目撃多発地点をパトロールする。
- ・西表島の地元の人々、観光客に対して、ヤマネコの交通事故防止について普及する。
- ・関係機関と協力して、路肩の草刈り、アンダーパスの清掃等交通事故防止につながる作業を行う。

## 活動実績

人件費等(管理費)除く支援額その他経費(予算額)：4,256,249円(3,721,600円)

上記金額に10月費用の他、車両の減価償却費¥802,466が加算される

## 2024年の交通事故は現在0！

イリオモテヤマネコの交通事故は昨年から発生しておらず連続無事故日数は660日を超えました(2024年10月20日現在)。ただし、ヤマネコが路上に頻出する事態は相変わらず発生しており、5～6月には浦内橋～干立間で、8～9月には古見～相良にかけて複数の個体が繰り返し路上に出没していたため、現場付近の見通しを良くするための草刈りや、LED看板やのぼりを立てた直接注意喚起を実施しました。6月9日には白浜で開催された海神祭前夜祭帰りの車列が続く中で、垂成獣が道路を徘徊し始めるという極めて危険な状況が発生しましたが、追い返しを行い、事故を未然に防ぐことができました。



環境省西表野生生物保護センターの皆さんと合同で行った夜間注意喚起。

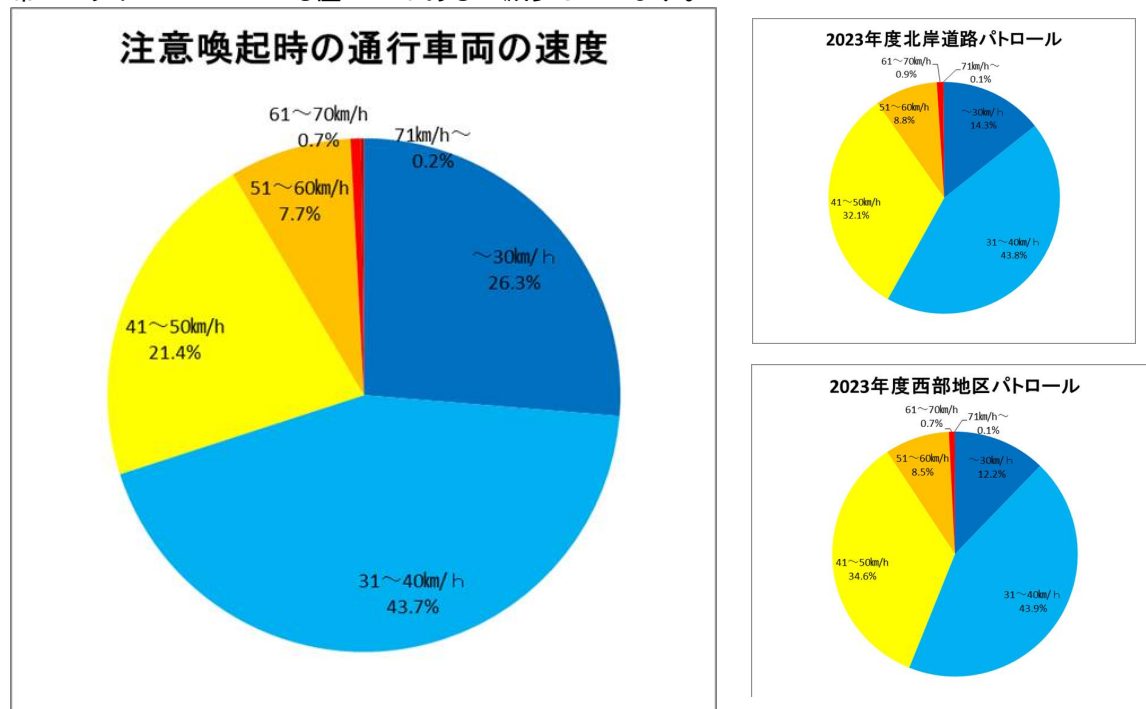


浦内橋～干立間で目撃されているイリオモテヤマネコ

イリオモテヤマネコの路上出没が多発している地点では昨年に引き続き注意喚起活動を行いました。2023年度は高那リサイクルセンターなどで24回実施したほか、西表ヤマネコクラブで実施しているパトロール体験の一環として、稲葉林道入り口で、時間短縮版の注意喚起を行いました。



注意喚起と合わせて行っている速度調査の結果、パトロールでの交通調査の結果と比較して速度が低下しており、直接注意喚起によって、速度順守率が上がるのが分かりました。51 km/h 以上の高速度帯のドライバーについても僅かではあるが減少しています。



## ヤマネコのいる暮らし授業

### 【目的】

西表島で、イリオモテヤマネコ／西表島の自然との「共存」を受け入れるだけでなく、一人一人が「共存」を日常の生活の中で意識し行動するような社会をめざす。

### 【概要】

西表島の子どもたちに、小中学校の場でヤマネコの生態と社会を踏まえ、ヤマネコの立場に立って島の暮らしのあり方について学ぶ機会を提供する。大人への波及効果も重視する。そのためには、現場の教員が主体となった授業実践、学校側が組織的にそれを支える仕組み作りを促すことが必要である。そこで、以下の活動を行う。

- ・現場教員が本授業の意義とそれを実践する技能・工夫を身に着ける教員研修会の実施
- ・教員の授業実践に関する相談、資料提供、実施における協力
- ・各校が教員の授業を受け入れる環境整備。そのため教育委員会が研修会を公式行事化するようはたらきかける。
- ・教員による授業とは別に、必要に応じた出張授業の実施

## 活動実績

人件費等(管理費)除く支援額その他経費(予算額):297,212円(390,000円)

2023年度は、西表小学校、上原小学校、白浜小学校で出前授業を開催し、フン分析やフィールドワークなどのプログラムを実施した。また、夏休みには大原中学校にて、西表島に新しく赴任した教員を対象としたイリオモテヤマネコ研修会を竹富町教育委員会と開催しました。



## イリオモテヤマネコの日/JTEF 西表島支部「やまねこパトロール」運営 直轄事業（本部&西表島支部やまねこパトロール）

### 【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止、イリオモテヤマネコの生息地に悪影響を与える土地利用防止、イリオモテヤマネコの生活をかく乱する観光のやり方の防止

### 【概要】

・西表島の地域住民を対象としたシンポジウムの開催、観光客に対する教育普及ツールの開発・普及等の教育普及活動を行う。

## 活動実績

人件費等（管理費）除く支援額その他経費（予算額）：4,406,049 円（4,091,550 円）

### 2024 年イリオモテヤマネコの日

4 月 15 日は竹富町条例で定められたイリオモテヤマネコの日。JTEF/支部やまねこパトロールは、2015 年の条例制定からこれまで様々なイベントを企画、実施してきましたが、今年は環境省西表野生生物保護センターで行われた「イリオモテヤマネコ子ども解説員」のイベントに協力しました。解説員を務めたのは JTEF/支部やまねこパトロールが毎年「ヤマネコのいる暮らしプロジェクト」で出前授業を受けた上原小学校 5 年生の皆さん。

最初は少し緊張した様子でしたが、解説していくうちに徐々にリラックスしたようで、最後は立派な解説員になっていました。上原小学校 5 年生の皆さん、お疲れ様でした。

また、4 月の第 2 週から 4 月 15 日のイリオモテヤマネコの日までは、夜間パトロール強化期間に位置づけ、ヤマネコの路上出没が多い稲葉林道入り口付近で集中的に注意喚起活動を行いました。



子ども解説員を務めた上原小学校 5 年生の皆さん（左）イリオモテヤマネコの日に行った夜間注意喚起活動（右）

**緊急支援：**プロジェクト以外の生息地支援またはプロジェクトの予算枠を超えて、緊急の支援を行なう必要がある場合に行うものです。

人件費等（管理費）除く支援額その他経費（予算額）：6,737,674 円（6,000,000 円）

### 【トラ・ゾウ:WTI の諸活動のための緊急支援】

海外の助成団体の中には、先進国に拠点を構えて途上国の NGO を支援する組織に対する助成プログラムを実施しているところがあります。Global Giving Foundation INC もそのひとつで、JTEF による WTI 支援に対して助成を行ってくれています。JTEF にとって欠くことのできない現地パートナーである WTI が安定して存続できるよう、この助成金を活用して、JTEF の中央インド、南インドのプロジェクト以外の WTI の活動について支援を行っています。

## 生息地外における野生生物保全に関する教育・普及事業

### 直轄事業

#### 【目的】

・トラ、ゾウ、ヤマネコの保全を導入として生物多様性保全に直接的な関心を持った一般の人々の間に「日本全体に野生の世界をそっと大切にしたいという思いが広がり、それを守りたいという願い」（JTEF 設立趣旨書「目的」）が生じるように普及活動を展開する。

#### 【概要】

- ・生物多様性保全について、事実を認識し、論理的に納得し、共感を持てるようなプログラム制作、イベント開催を行なう。
- ・日本において生物多様性を喪失させない消費行動を促す。たとえば、象牙製品を買わないことなど。

### 活動実績

人件費等（管理費）を除く決算額（予算額）： 1,070,893 円（940,000 円）

#### ・第 8 回オンラインイベント「イリオモテヤマネコ保護の『これまで』と『これから』を開催 2023.1.27

西表島が世界遺産登録を通じて国際観光市場に開放されたことの意味を改めて考え、イリオモテヤマネコ保護のために現場で求められる活動について考えました。岡村麻生さん（西表大原ヤマネコ研究所、JTEF 専門家アドバイザー）による講演と、パネルディスカッションで構成。

#### JTEF 第 8 回オンライン・イベント「イリオモテヤマネコ保護の『これまで』と『これから』」 2024.1.27

2023 年刊「イリオモテヤマネコ 水の島に生きる」の共著者である岡村麻生氏による講演。わかりやすく西表島の歴史から現在までを語っていただき、好評でした。

#### 第 29 回竹富町やまねこマラソンに参加。ブースも出展 2024.2.11



年代別で理事長の戸川が 3 位になり、2024 年も交通事故ゼロを目指して！の合言葉で走りました。

#### 東京動物園友の会ジュニア会員対象「野生のトラになってみよう！」 2024.3.2



オリジナルゲームを使った環境教育イベントを上野動物園で実施しました。世界野生生物の日のこの日、14 人の子供たちが JTEF のスタッフ、ボランティアと共に楽しいゲームで、野生のトラの生活を体験。トラへの共感を持ったようです。



**アースデイ東京 2024 に参加。 2023.4.13▶14**



ブース出展し大勢のお客様に活動をアピールしました(賛同者のヒサクニヒコさん(漫画家)と)。

**イリオモテヤマネコの日(4月15日)記念イベントに参加**

→15頁参照

**横浜市金沢動物園イベントでブース出展 2023.5.4▶5**



JTEFオリジナルのクイズに挑戦する「ゾウ博士になってみるゾウ!」は2日間で150人以上の参加で盛り上がりました。クイズに何度も挑戦する人も。

**世田谷白梅福祉作業所の「しらうめ春まつり」でブース出展 2024.5.18**

**世界ゾウの日記念イベント「エレファントナイト」にブース出展@金沢動物園 2024.8.10▶11**



**世界ゾウの日記念イベント第2期「ゾウ大使になろう」 2024.8.17& 24**



横浜市立金沢動物園とよこはま動物園ズーラシアとのコラボで、小学校高学年向け教育プログラムを開催しました。

「ナマステインディア2024」にブース出展 @代々木公園 2024.9.28▶ 29



募金箱だけで2万円近くのご寄付！皆さま、ボランティアさん、大感謝！

「ヤマネコ祭り」にブース出展 @井の頭自然文化園 2024.10.19▶20



オリジナルの紙芝居「ヤマネコちいと黄色いリボン」をスタッフが上演しました。

## 野生生物保全に関する政策提言事業

### 政策提言

#### 【目的】

- ・トラ、ゾウ、ヤマネコの保全を導入として生物多様性保全に直接的な関心を持ち、「日本全体に野生の世界をそっと大切にしたいという思いが広がり、それを守りたいという願いを実現できる社会」（JTEF 設立趣旨書「目的」）を実現するための政策と法制度を実現する。

#### 【概要】

- 以下の事項について、関係機関に政策提言を行なう。
- ・象牙の輸入禁止継続を前提に、国内象牙取引禁止を実現するための調査、提言、広報：「象牙市場閉鎖プロジェクト」
- ・象牙以外の野生生物犯罪に関する情報収集・分析に基づく法規制・法執行改善の提言

### 活動実績

人件費等（管理費）除く支援額その他経費（予算額）：4,218,525 円（3,070,000 円）

#### 【象牙市場閉鎖プロジェクト】

#### 東京都の象牙業界に対する補助金交付について、知事へ意見書提出

2024年6月11日、JTEFと米国のNGOであるEnvironmental Investigation Agency(EIA)は、小池百合子東京都知事に、「象牙業界団体に対する東京都補助金に関する意見書」を提出しました。東京都の産業労働局は、長年にわたって、象牙製品に対する国内需要を高めること、あるいは将来の国際象牙取引実施に向けた検討を進めることを目的とした象牙業界（東京象牙美術工芸協同組合）の事業に対して、補助金を投入し続けてきたことを明らかにしたものです。

(効果)

これらの展示やイベントにより、一般消費者がワシントン条約の内容を正しく理解し、「象牙工芸品」に対する関心や購買意欲を高め、需要の拡大により都内象牙業者の経営の安定と発展が図られるという効果がある。

更に、需要が拡大することにより、ワシントン条約締約国会議において、これまで象牙輸入を行ってきた国以外の国々からの、象牙輸入のテーマが本格化することが期待でき、原材料確保に向けてさらに大きく前進できるという効果がある。

2018 年度に象牙組合が東京都に提出した補助事業申請書類より。

このような補助金を支出する一方、小池知事は、2020 年 4 月以来象牙取引規制の評価を行っていました(担当は政策企画局)。検討を行った都の有識者会議は、その報告書で一部製品を除く象牙販売を禁止する条例の検討を提言しています。象牙組合への補助金交付の目的は、小池知事の新たな取り組みの趣旨にまったく沿わないものです。意見書では、そのような目的の補助金交付の即刻停止、都内の市場閉鎖のための条例制定を求めています。

### 環境大臣と面談し、国内象牙市場閉鎖を要望

2024 年 4 月 10 日、JTEF 理事長と事務局長が、伊藤信太郎環境大臣と環境省大臣室で面談、JTEF と EIA を含む計 23 の団体(うち 2 つが日本の団体)からの要望書をお渡ししました。環境省は今年 3 月に「種の保存法」の見直し作業を開始していますが、象牙の国内取引規制の見直しに高い優先度を置くこと、象牙に広く認められている禁止の例外を撤廃すること、真に狭い例外を除く国内象牙市場閉鎖のための法改正を行うことを要望しています。環境省は、市場閉鎖に否定的な立場を崩していませんが、この面談では伊藤大臣に終始真摯に対応していただきました。



要望書を環境大臣に提出

環境大臣に要望事項を説明

### ワシントン条約 SC77 に向け意見書公表、会議では世界の NGO を代表して発言

2023 年 11 月 6~10 日、スイスのジュネーブでワシントン条約第 77 回常設委員会(SC77)が開催されました。会議 3 日目の 8 日には象牙取引に関する決議の実施状況が議題になり、象牙が合法的に販売されている市場のある国に関わりのある象牙押収のデータ分析についても審議が行われました。押収象牙の違法取引ルート上に登場する国の国内象牙市場は違法な象牙の国際取引に寄与する、と考えられるからです。JTEF は、自らを含む世界の 12 団体を代表して発言し、日本を決して分析の対象から外してはならないと強調しました。この発言に対し、日本政府は、象牙の国内取引規制を厳格に管理していると反論しました。結局、この審議で、分析対象国や分析項目を次回の SC78 で決め、分析結果は CoP20 に報告されることになりました。



SC77 の審議で発言する JTEF 事務局長(スクリーン)

## チャリティー・イベント

### チャリティー・イベント

#### 【目的】

アーティストの協力を得るなど、多様なチャリティー・イベントの開催に協力し、JTEFへの寄付を募る。

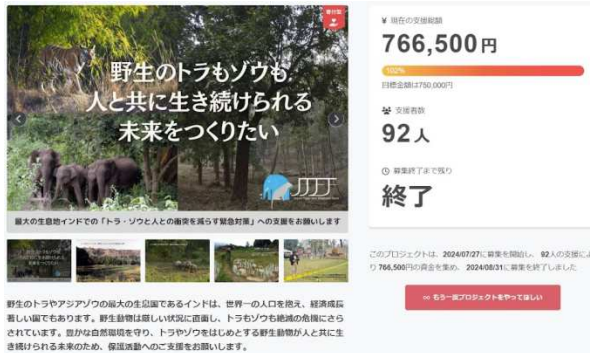
#### 【概要】

- ・実行委員会主催のチャリティー・イベント実施への協力、実行委員会への寄附のお願い。

#### 活動実績

人件費等（管理費）除く支援額その他経費（予算額）： 0円（0円）

### ・インドで行っているトラとゾウの活動を支えるクラウドファンディングを実施 2024.7.29～8.31



## 会報発行

### 年次報告書、通信、普及リーフレット等の発行、ホームページの運営等

#### 【目的】

- ・事業、組織運営の報告
- ・普及啓発、広報

#### 【概要】

- ・JTEF、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコそれぞれの年次報告書発行（各年1回）
- ・トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ通信（各年2回）
- ・ホームページ、メールマガジン、フェイスブック、ツイッターの運営
- ・普及リーフレットの増刷

#### 活動実績

人件費等（管理費）除く支援額その他経費（予算額）：532,493円（730,000円）

- ・各年次報告書 2月28日発行
- ・トラ・ゾウ・イリオモテヤマネコ保護基金通信 6月30日、10月31日発行
- ・新しくなったホームページを、随時更新。  
<https://www.jtef.jp/>
- ・facebook、Twitter、Instagram 随時発信

\* 以上の活動は、各種イベントの企画運営、英語文書の翻訳、会報の発送など様々な場面で多数のボランティアの方々に支えていただきました。  
\* 普及啓発、会報発行等に使用させていただいた写真、イラスト等もほとんどが著作者の方々のご好意によるものです。